

○申請タイトル

イタリアでのオペラフェスティバル出演とコンクールへの挑戦

○サブタイトル

未来の日本のバロック音楽界のために

○概要

2022年6月20日-7月20日まで、イタリアでの演奏活動と**2つ**のコンクールへの挑戦を通して、今後の日本のバロック音楽界を牽引していく音楽家になるために、必要な経験と知識を身につける。

○詳細

1.フランコ・ギッティオペラ国際コンクール

2022年6月18日音源審査による予選が行われ、通過した歌手たちが**6月24日-6月25日**にイゼオ湖周辺で行われるファイナルへ進むことができます。そして、**6月26日**に受賞者によるコンサートがイゼオ湖周辺のイベントの一環として行われます。すでに予選を通過し、コンクールのファイナル出場が決まっています。

ファイナルでは、私の**1番**のレパートリーであるグルック作曲歌劇「オルフェオとエウリディーチェ」のオルフェオのアリアを演奏します。この曲とは、約**10年**間の付き合いで、向き合う度に、音楽的な課題と同時に自分の奥底に眠る無意識の中にあった恐怖や弱さなどとも対峙します。しかし、最終的には自分とは何者であるかを教えてくれる大切な曲のひとつです。このコンクールの準備期間を通して、コンクールの場であっても、自分のやりたい演奏だけに最後まで集中することが、このコンクールの入賞以上に私の目標です。

いつか、皆様にもこの曲をお届けできる日を心より願っております。

2.ピッコロ・オペラ・フェスティバル-バロックコンサート-

2022年7月3日にウーディネで行われるバロックコンサートに出演します。このコンサートは、**6月20日-7月17日**ピッコロ・オペラ・フェスティバルの中の一環で行われるイベントの一つです。出演者の私とソプラノヴィオラ・ディ・パルマとメゾソプラノのジュリア・マッカベイは、昨年の参加したキジャーナアカデミーアンドレアス・ショル氏によるバロック声楽クラスの生徒で、アカデミー側から選抜された歌手たち

です。チェンバロ伴奏は、マリウス・バルトッチーニ氏です。今回の企画のメインとなるコンサートです。

バロック前期後期のイタリア・イギリスのオペラ作品を中心のプログラムとなっております。共演者の方々は本当に素晴らしい歌手で、昨年キジャーナ音楽院の優秀者によるファイナルコンサートでも共演して、終演後にまたいつかみんなでコンサートできたらいいねと話していたので、今回それがすぐに実現して嬉しいです。それぞれが考えるバロック音楽の考え方と実践の中で感じた経験を出演者で共有して、演奏会の中で全員で成長できる良いコンサートにしたいです。

またイタリアに住む方々にライブでの演奏を聴いていただく機会も貴重なので、「これぞ新田壮人の音楽」という演奏をしっかりとお伝えできるように、プログラムひとつひとつの曲への想いを込めて、丁寧に準備したいと思います。日本に住んでいる方々にも、勇気や希望を共有できたら嬉しいです。

https://piccolofestival.org/programma/ariose-vaghezze/?fbclid=IwAR2md2cMRJYeLH0fmi6OW6SN0dwDmylrkluGQD209m8hRPxILiAO_NiJ07U

3.ザンドナーイオペラ国際コンクール

2022年7月9日-13日までガルダ湖近辺で行われます。7月**16日**にはオーケストラ伴奏での受賞者コンサートがあります。このコンクールの過去の入賞者の中には、現在世界で活躍する歌手が多く、イタリアの若手オペラ歌手たちの登竜門として開催されています。

私の今後の演奏活動の場を拓げていくために大事なコンクールではありますが、フランコ・ギッティオペラ国際コンクールと同じモチベーションで、結果を意識しすぎず、自分がその時できる最高の音楽をすることが目標です。私は言葉よりも音に意識がいきすぎて発音に対する意識が薄くなる癖があり、声が広がり前に響きが集まらなくなり、結果音程が定まらなくなるのが今の課題です。それらをレッスンでどの音でどの母音に問題がどこに起きるかを分析して、本番までにしっかり調整して臨めたらと思います。

○将来の夢・展望について

私の最終的な目標は日本音楽大学で教鞭を執りながら、日本のバロック音楽の普及のため演奏活動をしていくことです。

まず、これから日本で演奏活動をしつつ、カウンターテナーとバロック音楽の専門知識を求めて、イギリス・イタリア・スイス・オランダに定期的に赴きたいです。また海外での演奏機会があれば、今回のように積極的に引き受けて、共演者と知識を共有し合ったり、実践の中で彼らがその国で長年培ってきた何かを感じて、その後その経験を日本に普及させていきたいです。

10年後は国内外で幅広く演奏活動をしながらか音楽大学の教職に就き、演奏と教育の**2**つを通じて、さらに日本のバロック音楽の発展に拍車をかけていきたいです。

そして、それ以降の目標は、**70**歳になっても、音楽家としての向上心を忘れずに常に成長していき、自分と向き合い続けたい。その時の演奏を聴いていただき、大好きな歌を最後の最後まで歌えることができることを証明して、人々に希望を与えられる存在でありたい。

そのために、今自分の中にある弱さや恐怖としっかり向き合って、私自身の音楽は何か、自分が何者であるかを追い求めていきたいです。

○プロフィール

国立音楽大学卒業、同大学院修了。ミラノ市立クラウディオ・アッパード音楽院バロック声楽科で**4**年間研鑽を積む。第**4**回ベッラーノ国際オペラコンクール第**3**位(日本人歴代最高位)。第**10**回東京国際声楽コンクール新進声楽家部門第**1**位及び東京新聞社賞。第**34**回ソレイユ音楽コンクール声楽部門第**2**位及び優秀賞受賞。**2021**年ローマ国際宗教曲コンクール、第**8**回マリア・マリブラン国際オペラコンクール、第**3**回サン・コロンバーノ国際宗教曲コンクール、マリオ・オルランドーニ国際オペラコンクールファイナリスト。モスクワ国際音楽オンラインコンクール第**1**位及び特別賞。**BMa**英国音楽コンクール第**3**位イタリア・ヴェルディホールで行われたミラノ音楽祭にて現代作曲家クルタッグ作曲の作品を取り上げた演奏会にソリストとして出演し、ヴェルディ交響楽団**La Verdi**と共演。キジャーナ音楽院で行われたモーツァルテウム音楽院主催のアンドレアス・ショル氏によるバロック声楽コースを受講し、成績優秀者としてファイナルコンサートに出演。同時にディプロマを取得。その他にもアントネッロ主催「メサイア」、ミラノ・スフォルツェ

スコ城、フランス・フレネ音楽祭にてアルトソリストとしてオーケストラ共演など、日欧で多数のバロック・現代曲の作品の舞台を踏み研鑽を積む。

スカラ座歌手ミルコ・グアダニーニ氏を始め、ジャンルーカ・カプアーノ氏、リッカルド・ドーニ氏等世界的に著名な音楽家とも数多く共演。**2020年10月**にはイタリアのアントニオ・ベッローニ劇場にてカウンターテナーでは初のソロリサイタルを行い好評を博す。現在、**Roberto Balconi**、上杉清仁、**Sonia Tedla Chebreab** の各氏に師事。

○活動詳細（動画）

<https://youtube.com/channel/UCbEs0D5pH4UI5JWb4T-Q10w>